

JGS 宝石勉強会「特許・実用新案、意匠、商標の国際化」

辻本希世士先生公演「ジュエリーと知財」レポート

Gem-A 受講生 遠藤礼奈

本日の講師である辻本先生は、大阪でも「知財といったら辻本さん」というくらい、知財の案件を多く扱い、また得意とされている、弁理士さんでもある弁護士さん、です。日本だけでなく、ニューヨーク州の弁護士資格もお持ちのようです。すごい。さすがお名前に「士」がつく方は違います。弁護士さんになるために生まれてきたという感じです。このような方のお話を自宅に居ながらにして聴講できるなんてありがたいです。アドバイザーの山崎藍子先生はご自身が宝飾デザイナーをされていて、弟さんが弁護士さんということで、デザイナーの視点から知財についてお話くださいましたが、普通はなかなか、弁護士さんや弁理士さんは身内に居ないものです、うらやましい！

まずレジュメのタイトルを拝見し「知財で勝ち、知財で負けない」というサブタイトルにハッとさせられました。なんとなくわかっているようで、ややこしい、「知財」について勉強してみよう～というゆるふわ動機の私が聴講してもいいのだろうか、という緊張感あふれるタイトル。これは「勝負」なのです。禪を締め直し、気合をいれて拝聴しました。

はじめに、自由競争の世の中では、商品の向上のためには本来的には真似は OK という、辻本先生の意外なお言葉。たしかに「真似」無くして今日の日本の発展はあり得なかったとも思います。とはいえ、頑張って考え出した人の権利も特別に保護しようではないか、という画期的な仕組みが「知財」の考え方だそうです。そう思うと、なんか「いいもの」のような気がしてきました。

その流れで、なぜ意匠登録や、商標登録が必要なのか、というお話をご説明いただきました。なんと、ここで「私は心が広いから、ちょっとくらいパクられたって気にしない、だから登録なんてしないわ」などと呑気なことは言っていられない、ということが発覚！たとえ自分が先に考えたデザインだとしても、後に同様のデザインを考案した方が、特許庁に登録してしまったら、その方の権利を侵害してしまうことになり、訴えられてしまったり、損害賠償金の支払いを命じられたり、もうそのデザインを使うことが出来なくなる、なんていう可能性もあるのです！なんというシビアな世界、やはりこれは戦なのです。食うか食われるか、なのです。恐ろしい…。

その後、先生は分かりやすい色々な判例を挙げながらご説明くださいました。タイトルがいちいち「〇〇事件」となっていて、これは「事件」なのだ…！と緊張が走ります。先生がお客様の権利をお守りした、という過去の案件のお話だったのですが、その戦ったお相手が、誰もが知る、超巨大な組織ということにドキドキしました。意匠登録は公開前に

登録しなければならない、などという初耳情報も次々と登場します。「部分意匠」など、戦い方の技も、いくつか登場しました。類似と模倣の境目はどこにあるのだろう、とぼんやり考えながら聞いていましたが、お話はどんどん進んでいきます。

次は商品の意匠だけでなく、ブランドを守る、というお話です。そこでアドバイザーの山崎先生が「ルネッサンス」というブランド名で呉服屋さんと戦って勝利したお話をしてくださいました。お美しい容貌からは想像できない戦闘力の高さです。山崎先生はしきりに「ジュエリーは世界が相手だ」というお言葉を口にされていて、世界で戦う人はすごいなあ…と、口を開けて聞いていました。似たようなブランド名が偶然かぶってしまうことは、確かによくありそうで、そのことで、自分のブランド名がもう使えなくなったりしたら、スタンプやショップカードなど作り直さなくてはならず、そうなったらたしかに、これは大変だな、と思いました。

今回の勉強会を受講し、それにしても「ものを作り出してそれを売る」、ということは、なんと大変なのだ、と思い知らされました。思いもよらぬところに敵がいるのです。戦いの苦手な平和主義者にはなんとも辛い話です。今後、悲しい思いをしないように、もし何かをデザインし、販売する機会があれば、ぜひ先生方のお力をお借りし、知財という制度を活用しなければ、と強く思った…のですが、はて、いったいおいくらなのだろう、という疑問が残りました。案件にもよると思うので、一概には言えないでしょうから、質問は控えましたが、価格表や、JGS 紹介特別割引価格などあればいいのに、と思いました。

…などなど、スリルと緊張の連続で、午後のオンラインウェビナーなのに一瞬たりとも眠気を感じませんでした。辻本先生の巧みな話術と経験豊富なエピソードによるわかりやすいご説明、私たちの理解の為にご自身の実体験をお話しくださり、「世界と戦う」ことをお教えくださった山崎先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。